

平成19年10月1日

経済産業省

「size-JPN 2004-2006」 調査結果について

経済産業省では、工業製品の寸法や形状を決定するための基本データである人体寸法・形状データを収集するため、「人間特性基盤整備事業（size-JPN）」を実施し、約7,000人分のデータを収集いたしました。

この度収集したデータを元にした調査結果をまとめましたので報告します。

1. 事業の概要

人体寸法・形状データは、国民の生活環境を取り巻く、工業製品の寸法や形状を決定するための最も基本となるデータである。

そこで、本事業では、2004～2006年度において6,742人（女性3,212人、男性3,530人）の人体寸法・形状計測を実施し、最新の人体寸法・形状データを取得した。

身長、体重をはじめとし、手足などの寸法163カ所の計測を行い、男女別・年齢別（5歳ごと）に集計を行った。

主な計測結果については、別紙の通り。

2. 調査結果に対する分析

今回得られた人体寸法データと前回（1992～1994年）データを比較し、日本人の体格変化について検討を行い、以下のような傾向を確認しました。

（男性）

30歳以上の全ての年代で、身長、体重、バスト囲、臀突囲とも本データの方が大きく、前回（12年前）よりも体格が大きくなっている。

例えば、

－40歳代は、身長が約3cm、体重が約4kg増加した。

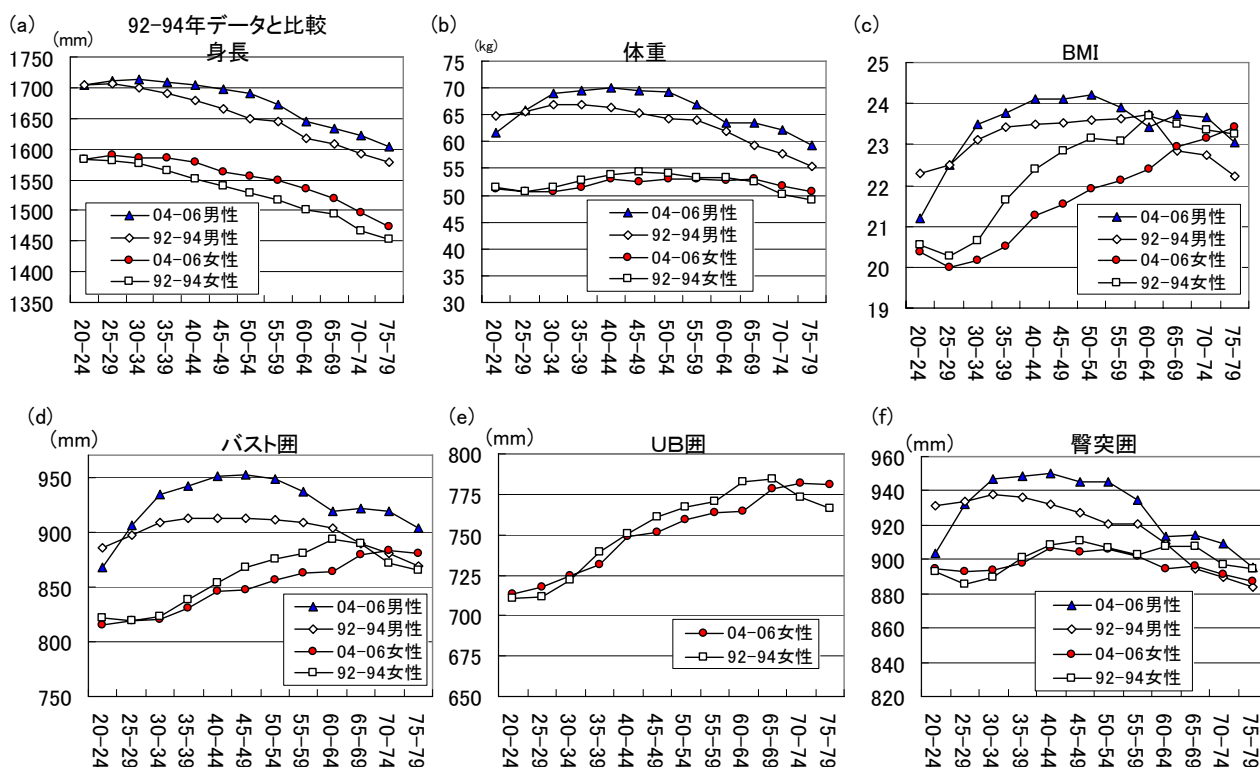
－40歳代は、BMI値（体重(kg)／(身長(cm))²）が24を超え前回よりもやや太り気味の傾向がみられた。

(女性)

- ・ 25 歳以上の全ての年代で前回よりも体格が細くなっている。
- ・ BMI値でも75-79 歳以外の全ての年代において前回より値が低くなっており、細身の傾向がみられた。

例えば、

—40歳代は、身長が約3cm増加したにもかかわらず、体重は約1kg減少した。



今回と前回(1992年～1994年)の平均値グラフ

(a)身長、(b)体重、(c)BMI、(d)バスト囲、(e)アンダーバスト囲、(f)臀突囲

3. 詳細データについて

「人間特性基盤整備事業」での人体寸法計測データ及び「子どもの身体特性のデータベース」については、(社)人間生活工学研究センターHPにて公表。

<http://www.hql.jp/index.shtml>

問い合わせ先：

(社)人間生活工学研究センター

担当者：中西、柳浦

電話：06-6539-2348

(参考) 子どもの身体特性データベースについて

また、回転ドアやシュレッダー事故など、工業製品による子どもが巻きこまれる事故が発生し社会問題となっており、こうした社会的背景から、子どもの事故を未然に防ぐための機械設備や機械製品の安全設計に向け、(社)日本機械工業連合会では、未就学児(満0歳児から満6歳児まで)503人の身体特性の調査(委託先:(社)人間生活工学研究センター)を行っている。

身体計測データのさらなる活用の観点から、併せてご報告いたします。

【参考資料】

- ・参考資料1 「人間特性基盤整備事業の終了と平成18年度成果報告書の公表について」

- ・参考資料2 「子どもの身体特性のデータベース構築について」

(問い合わせ先)

経済産業省 製造産業局 デザイン・人間生活システム政策室

担当者: 諸永、高橋、秋元、横山、田中

電話: 03-3501-9259 (直通)